

〈教育実践報告〉

保育者の英語による手遊び指導に関する研究

—その留意事項を中心として—

横井一之*

1. はじめに

秀真一郎ら（2013）によると、幼児教育現場で英語を直接指導する教師はネイティブスピーカーが多い。筆者は、ビデオなどの英語教材を用いて行えば、日本の保育者養成校で養成された保育者は、英語の手遊びを指導することが可能だと考えている。保育者が英語の手遊びを指導できない理由は「自信」のなさだと思う。この「自信」について、専門演習Ⅱで学ぶ学生と一緒に理解を深めていきたい。そして、理解を深める過程で、学生が「自信」をつける方法を探りたい。

専門演習Ⅱの中で学生と一緒に手遊びを行い、学生が英語の手遊びを模擬保育し、その様子を筆者がまとめた。この論文を書く様子を学生が見ることで、さらに学生が4年生になったときに自身が卒論を書くときの参考となれば幸いである。

2. 指導する自信をつける具体的プログラム

(1) 学生1名につき日本語の手遊び1曲、英語の手遊び1曲を選定

3名の学生に対して、各2種類の手遊びを用意し、一緒に演じる。

(2) 模擬保育 日本語の手遊び

各学生が、自分が取り組む日本語の手遊びを決定し、他の学生と教師の前で模擬保育を行う。

(3) 模擬保育 英語の手遊び

各学生が、自分が取り組む英語の手遊びを決定し、他の学生と教師の前で模擬保育を行う。

(4) 他の学生の行った英語の手遊びの模擬保育

各学生が、他の2人の学生が行った英語の手遊びの模擬保育を行う。

3. 実際の活動

(1) 手遊びを教師と一緒に演じて、関連する手遊びに慣れる。(2024年10月01日)

学生に日本語、英語と2曲が対になっている手遊びを3人分、全6曲を示して、一緒に手遊びをして、後にその感想を各学生が書いた。

表1は各学生が取り組んだ手遊びの一覧である。

* 東海学園大学教育学部教授

表1 手遊び一覧

	日本語の手遊び	英語の手遊び
学生1	a. まがりかど	d. One, two, three, four, five.
学生2	b. あたま・かた・ひざ・ボン	e. Head, shoulders, knees and toes.
学生3	c. 大きな栗の木の下で	f. Under the spreading chestnut tree.

① 3名の学生、教師と一緒に「まがりかど」の手遊びを演じた。

「まがりかど」は表2のような歌詞で、表3のように赤ちゃんの歌詞の部分を変容した。

表2 まがりかど（作詞 今井弘雄、作曲 倉橋惣三）歌詞

とうさんが かけてきて とうさんが かけてきて まがりかどで ぶつかって おまえがわるいんだぞ おまえがわるいんだぞ ふたりそろって プンプン かあさんが かけてきて かあさんが かけてきて まがりかどで ぶつかって あなたがわるいのよ あなたがわるいのよ ふたりそろって ワッハッハッ あかちゃんが かけてきて あかちゃんが かけてきて まがりかどで ぶつかって ふたりそろって シクシクシク

表3 まがりかど（あかちゃんの変容部分）

あかちゃんが はってきて あかちゃんが はってきて まがりかどでぶつかって バブバブバブ バブバブバブ ふたりそろって バブバブバブ
--

a. 学生1のみinnで演じた感想

赤ちゃんの「バブバブバブ」が面白かった。

b. 学生2のみinnで演じた感想

赤ちゃんのときは、みんなで作った「バブバブバブ」の音が楽しかった。

c. 学生3のみinnで演じた感想

赤ちゃんの言い合いのところが、自分たちで決められて楽しいと思った。

② 3名の学生、教師と一緒に「あたま・かた・ひざ・ボン」の手遊びを演じた。

a. 学生1のみinnで演じた感想

地域や年代によって、歌詞が違うかもしれない。

b. 学生2のみinnで演じた感想

面白かった。

c. 学生3のみinnで演じた感想

みんなで出来て楽しかった。

③ 3名の学生、教師と一緒に「大きな栗の木の下で」の手遊びを演じた。

a. 学生1のみinnで演じた感想

大きなという表現は2種類に分かれる。

b. 学生2のみinnで演じた感想

久々に演じたが、身体が振り付けを覚えていてすごいと思った。

c. 学生3のみinnで演じた感想

先生と学生で、大きなの表し方が違っており、面白かった。

④ 3名の学生、教師と一緒に「One, two, three, four, five.」の手遊びを演じた。

この手遊びの歌詞は表4のようである。表5が歌詞の和訳である。また、振り付けがはっきりしていなかったため、3名の学生と一緒に表6のように決めた。

表4 One, two, three, four, five. (作詞・作曲不詳) 歌詞

One two three four five, once I caught a fish alive. Six seven eight nine ten, then I let it go again. Why did you let it go? Because it bit my finger so. Which finger did he bite? This little finger on my right.

表5 One, two, three, four, five 歌詞 和訳

1, 2, 3, 4, 5 こないだね 生きたまま魚を捕まえたのよ 6, 7, 8, 9, 10 そして、逃がしてやったのよ どうして、にがしてやったの？ 私の指をかんだからよ。 どの指をかんだの？ 右手の小指よ。
--

表6 One, two, three, four, five. 振り付け

	歌詞	歌詞
歌詞	One two three four five	once I caught a fish alive.
振り付け	人差し指から順に、数に合わせて指を挙げる	両手を合わせて、生きた魚を捕まえているようにする
歌詞	Six seven eight nine ten	then I let it go again.
振り付け	5本から、親指から順に指を折り、数を示す	両手を音をたて合わせ、右手で魚が逃げる様子を示す
歌詞	Why did you let it go?	Because it bit my finger so.
振り付け	両手を広げ、左手で魚が逃げた様子を示す	右手を挙げ、左手で指を噛む仕草をする
歌詞	Which finger did he bite?	This little finger on my right.
振り付け	10本の指を示し、どれが噛まれたかを尋ねる様子	右手を挙げて、左人差し指で小指を差す

a. 学生1のみinnで演じた感想

手遊びの振り付けを考えることができ楽しかった。

b. 学生2のみんなで演じた感想

4人で手遊びを作れて（創作できて）楽しかった。初めて、手遊びを作れて良かった。

c. 学生3のみんなで演じた感想

みんなで振り付けするのが楽しかった。

- ⑤ 3名の学生、教師と一緒に「Head, shoulders, knees and toes.」の手遊びを演じた。この手遊びの歌詞は、表7のようである。

表7 Head, shoulders, knees and toes（作詞・作曲不詳）歌詞

Head, shoulders, knees, and toes. Head, shoulders, knees and toes. Eyes and ears and mouth and nose. Head, shoulders, knees and toes.
--

a. 学生1のみんなで演じた感想

日本語のものは簡単だけど、英語は同じ意味でも難しく感じる。

b. 学生2のみんなで演じた感想

英語が苦手でも、この手遊びは出来るので楽しんでできた。

c. 学生3のみんなで演じた感想

つま先を触るのが大変だった。

- ⑥ 3名の学生、教師と一緒に「Under the spreading chestnut tree.」の手遊びを演じた。この手遊びの歌詞は表8のようである。

表8 Under the Spreading Chestnut Tree（作詞・作曲不詳）歌詞

Under the spreading chestnut tree, there we sit both you and me. Oh, how happy we would be. Under the spreading chestnut tree.

a. 学生1のみんなで演じた感想

英語で歌うことに必死になると、振り付けを間違えたり忘れてしまう。

b. 学生2のみんなで演じた感想

日本語 Ver. は簡単にできるが、英語 Ver. は難しいと感じた。

c. 学生3のみんなで演じた感想

英語にするだけで、歌うのが難しくなった。

(2) 模擬保育の形式で、日本語の手遊びを他者に行う（2024年11月05日）

- ① 学生1が、「まがりかど」の手遊びを模擬保育した。

a. 学生1の模擬保育をした反省等

ぶつかった時のお母さんやお父さんのセリフをもう少し気持ちを入れて歌いたい。もう少し赤ちゃんのバブバブをきちんと言えるようにしたい。

b. 学生2の模擬保育を聞いた感想

お父さん、お母さん、赤ちゃんが指を変えるので、どの指が何を示しているのか覚えられる手遊びだった。

c. 学生3の模擬保育を聞いた感想

赤ちゃんがぶつかったあとの言葉のかけ合いを、楽譜通りではなく、変えていたところが良いと思った。左手から始めることで、見てる側がやりやすいようにして良かった。

②学生2が、「あたま・かた・ひざ・ポン」の手遊びを模擬保育した。

a. 学生1の模擬保育を聞いた感想

分かりやすく、歌に合わせて体を触っていたので、初めての子どもでも分かりやすそう。目、耳、鼻、口の順番も合っていた。

b. 学生2の模擬保育をした反省等

子どもの頃からやっている手遊びなのと短く簡単なのでスムーズに手遊びすることが出来た。

c. 学生3の模擬保育を聞いた感想

目、耳、鼻、口のところをハキハキ言っていて、しっかり指をさしていたので、とても分かりやすかった。リズムがゆっくりだったので、真似がしやすかった。

③学生3が、「大きな栗の木の下で」の手遊びを模擬保育した。

a. 学生1の模擬保育を聞いた感想

「せーの」と言って始まるタイミングが分かりやすくて良かった。私というときに、鼻を触っていて、具体的な場所が分かるのでやりやすい。

b. 学生2の模擬保育を聞いた感想

両手を使って大きな栗を表すところが分かりやすくて良いと思った。また、あなたと私のところで指を差して表現するのも言葉と合っていて良いと思った。

c. 学生3の模擬保育をした反省等

リズムをゆっくりして、一緒に踊る人たちがついてきやすいようにすることができた。相手から見て真似しやすいように、反対の手で行うことができた。

(3) 模擬保育の形式で、英語の手遊びを他者に行う(2024年11月12日)

①学生1が、「One, two, three, four, five.」の手遊びを模擬保育した。

a. 学生1の模擬保育をした反省等

歌詞がまだうろ覚えだから、きちんとみんなの前でできるように覚えたい。

b. 学生2の模擬保育を聞いた感想

英語と手遊びの組み合わせはあまり見ないので、新鮮で楽しかったです。

c. 学生3の模擬保育を聞いた感想

英語の歌詞をしっかりと覚えていてよかった。手遊びのフリが見やすくて、真似がしやすかった。

②学生2が、「Head, shoulders, knees, and toes.」の手遊びを模擬保育した。

a. 学生1の模擬保育を聞いた感想

声が大きくて聞きやすかった。とても笑顔で雰囲気良かった。

b. 学生2の模擬保育をした反省等

体のパーツを英語で覚えられる手遊びなので、勉強になると思った。また、全身を使うので、軽い運動にもなると思った。

c. 学生3の模擬保育を聞いた感想

歌が聞き取りやすかった。歌詞に合わせて身体がしっかり動いていて、見やすかった。

③学生3が、「Under the spreading chestnut tree.」の手遊びを模擬保育した。

a. 学生1の模擬保育を聞いた感想

動作が大きくて分かりやすかった。つまさきまでタッチしないからやりやすい。

b. 学生2の模擬保育を聞いた感想

大きな栗の木の下での英語 Ver. を知られて良かった。秋にぴったりの手遊びだと思う。

c. 学生3の模擬保育をした反省等

分かりやすく手遊びすることができた。大きく動くことができた。

(4) 他の学生の行った英語の手遊びを模擬保育する。(2024年11月19日)

他の学生の行った英語の手遊びを含め、3名の学生が模擬保育を全て行った。他の学生が模擬保育を行う様子を見た感想を述べ、自分が演じた感想等を述べた。

①学生1から順に、「One, two, three, four, five.」の手遊びを演じた各学生の感想

a. 学生1が他の学生の模擬指導を聞いた感想

他の学生は初めて演じるのに、英語も振りも覚えており、すごいと思った。

b. 学生2が他の学生の模擬保育を聞いた感想

歌を歌いながら前をみて、手遊びするのは難しいと感じた。もっと練習を重ねれば出来るようになるかなと思った。

c. 学生3が他の学生の模擬保育を聞いた感想

子どもが真似しやすいうように大きく演技していた。スムーズに手遊びができており、よかった。

d. 学生1が模擬保育をした感想

子どもの前のつもりで演じていると、自分で演じる時と手が逆なので、迷う時がある。

e. 学生2が模擬保育をした感想

1回目に出てくるfingerの部分を2回目のfingerの振りをしてしまった。同じ歌詞のところに気をつけて手遊びをしたいと思う。

f. 学生3が模擬保育をした感想

見ている人に分かりやすく演じるのが、途中でどっちの手かわからなくなったけれど、最後まで演じることができた。

②学生2学生3、学生1の順に、「Head, shoulders, knees and toes.」の手遊びを演じた各学生の感想

a. 学生1が他の学生の模擬指導を聞いた感想

みなさん声かけが上手だった。身体を大きく使っていた。

b. 学生2が他の学生の模擬保育を聞いた感想

笑顔いっぱい手遊びしており、みてとても楽しかった。

c. 学生3が他の学生の模擬保育を聞いた感想

子どもたちがいると想定して、手遊びが終わるまで演技できていた。

d. 学生1が模擬保育をした感想

演じる前の声かけが難しかった。手の動きが左右同じなのでやりやすい。

e. 学生2が模擬保育をした感想

この手遊びは小さい頃からやっていたので、スムーズに演じることができた。

f. 学生3が模擬保育をした感想

手遊びをする前と後に声かけもできて、きちんと手遊びも間違えずにできた。

③学生3から学生1、学生2の順に、「Under the spreading chestnut tree.」の手遊びを演じた各学生の感想

a. 学生1が他の学生の模擬保育を聞いた感想

他の学生は、保育者の立場で手の向きがきちんとしていて、分かりやすかった。

b. 学生2が他の学生の模擬保育を聞いた感想

前を向いて笑顔で手遊びをしていて、とても楽しいことが伝わった。

c. 学生3が他の学生の模擬指導を聞いた感想

手遊びのふりがゆっくりとしたスピードで、真似しやすかった。子どもと一緒にやっている感じが伝わった。

d. 学生1が模擬保育をした感想

少し間違えた。「相手を指差す」ところから、「自分を指差す」までの時間が長く、タイミングを間違えてしまう。

e. 学生2が模擬保育をした感想

何も見ずに歌うことができ、達成感を味わうことができた。

f. 学生3が模擬保育をした感想

子どもを想定しながら、手遊びをすることができた。

4. 分析

本研究では、英語の歌詞の手遊び指導への抵抗感を減らすために、3つの方法を用いた。

(1) 日本語と英語の似ている手遊びを同時に指導する

本研究では、似た種類の日本語の歌詞と英語の歌詞の手遊びを対にして取り上げた。それにより、英語の歌詞の手遊びへの抵抗感を低減しようと試みた。取り上げた手遊びは、表1に示したように6曲である。

①お話し手遊び

表1のa. まがりかど、d. one, two, three, four, five は、手遊びの話に流れがあり、手遊びがドラマになっている。

②からだの名前手遊び

表1に示したように、b. あたま・かた・ひざ・ポン、e. Head, shoulders, knees and toes. は、身体の一部を触れながら手遊びをしていく。何度も繰り返すと、身体の一部の名称が覚わる。

③運動手遊び

表1のc. おおきなくりのきの下で、とf. Under the spreading chestnut tree. は、歌詞が日本語と英語と違うが、意味は同じで同じ振り付けである。この手遊びは腕を上げて、降ろし、相手と自分を指差し、仲良くして、また腕を上げるという大きな運動をする。運動をしながら、一緒にいる友達と仲良くなれる。

(2) 仲間意識をもち、何度も演じて練習する

英語の手遊びを、はじめに教師が手本を示し演じ、学生と一緒に慣れるまで手遊びを練習する。英語の手遊びを行う場合にもっとも気にかけるのはその発音だと思われる。手遊びの要素は、その音楽、歌詞、振り付けである。歌詞が多少不鮮明でも音楽、振り付けが流れると、手遊びは成立する。英語の歌詞に必要以上に神経質になることはないを意識づけた。

(3) 模擬保育を頻繁に行う

上記のように、教師も含めて仲間で何度も練習を行い、その中で、保育者として子どもの前で1人で演じる訓練をできるだけ頻繁に取り入れた。具体的には、英語の手遊びのみの模擬保育ではいけないので、まず日本語の手遊びの模擬保育を行った。手遊びを行ったのちには、各学生が自他の演技に対して感想を述べあってフィードバックを行った。そして、英語の手遊びでも模擬保育を行い、再び仲間で一緒に演じ、感想を述べあい、自分と他の学生の感想があまり差がない、手遊びは基本的に楽しく音楽に

のって手足、身体を振り付け、心地よく修まればよいことを体験した。

5. 考察

学生が自信をもって英語の手遊びを演じることができるよう、第2章でプログラムを掲げ、第3章で具体的にそのプログラムを展開した様子を示した。

最初に教師と一緒に学生全員で手遊びを行い、十分楽しみ、それらの手遊びに慣れるようにした。その中で歌詞や手遊びが曖昧なものについては、学生と一緒に確認し、また創作して、学生が手遊びを演じられるようにした。

2番目には英語の手遊びと特徴が似ている日本語の手遊びを対にして、各担当の学生に模擬保育を練習させた。3番目には、自分が担当する英語の手遊びを各学生に模擬保育させた。4番目には、3つの英語の手遊びを、担当者を中心として、担当でない2人の学生にも模擬保育を担当させ、英語の手遊びに慣れるように配慮した。

この4番目の活動を終了した後に、各学生の英語そのものに対するモチベーションを知るために、簡単な座談会を行った。各学生の英語に対するプロフィールをまとめると表9のようになる。

表9 学生の英語に対するプロフィール (2024年11月19日)

学生	項目	回答
1	幼児期の英語の取り組み 英語を始めた時期 英語への興味 塾など 現況	マミーベアという塾で遊び程度 小学校4年生 教師が代わり、高2からいやになった 学習塾は中学校から 英語に興味はある
2	幼児期の英語の取り組み 英語を始めた時期 英語への興味 塾など 現況	なし 小学校3年生、ECC (小3入り小5でやめ) 高校で英語の勉強についていけなくなった ピアノ5歳、学習塾は中学校から あまり興味はない。面白ければやりたい。
3	幼児期の英語の取り組み 英語を始めた時期 英語への興味 塾など 現況	なし 小学校3年 (学校で開始) 成績が入るようになり嫌いとなった エレクトーン4歳、公文小5、学習塾中学生 特に興味なし

今回実証対象とした学生は、表9を見る限りは特に英語を得意とする保育学生ではない。3年生から始まる筆者のゼミでは、手遊びの演技、絵本の読み聞かせ、パネルシアターの演技、草花・野菜の栽培、公園の散策等を取り上げてきた。その手遊びの中で、今回英語の手遊びを取り上げた。それは、筆者が「英語を8年間勉強してきた学生なら、英語圏の幼児教育施設で取り上げる手遊びの歌の指導はできる」と考えているからである。その考えの実証を行ったということである。

言葉の指導は、とにかく慣れが大切で、何度も繰り返すことが大切である。そのために、ゼミの中で教師、学生が支え合い、何度も練習を行い、時に指導者役の立場でも保育をしてその慣れにメリハリも

つけた。

学生1は、「One, two, three, four, five.」という手遊びを、2024年10月1日に教師と他の学生と演じた後の感想、11月12日に模擬保育した後の反省等、11月19日に模擬保育した後の反省等を表10のように述べている。

表10 学生1の模擬保育後の反省等の変容（2024年10月、11月）

10月01日	みんなで演じた感想：手遊びの振り付けを考えることができて楽しかった。
11月12日	模擬保育をした反省等：歌詞がまだうろ覚えだから、きちんとみんなの前でできるように覚えたい。
11月19日	模擬保育をした感想：子どもの前のつもりで演じていると、自分で演じる時と手が逆なので、迷う時がある。

表10の感想、反省等の中には英語の手遊びだからという記述は特にない。10月1日に初めてこの歌を知り、覚えるために十分時間を設けたが、11月12日の模擬保育の後で、「歌詞がうろ覚え」と記述しているのは、英語の歌詞だからと考えられないこともない。

11月19日に、3人の学生が「Under the spreading chestnut tree.」をそれぞれ模擬保育した後にその感想を以下の表11のように述べている。

表11 模擬保育後の感想（「Under the spreading chestnut tree.」11月19日）

<p>学生1が模擬保育をした感想：少し間違えた。「相手を指差す」ところから、「自分を指差す」までの時間が長く、タイミングを間違えてしまう。</p> <p>学生2が模擬保育をした感想：何も見ずに歌うことができて、達成感を味わうことができた。</p> <p>学生3が模擬保育をした感想：子どもを想定しながら、手遊びをすることができた。</p>

表11を見ると、どの学生も英語の手遊びを自分の中に取り込んで、記述していると思う。幼稚園や保育所の保育現場でも、保育者のみに歌詞の暗記、手振りを任せるのでなく、今回の教師のような担当者を決め、その担当者を中心に練習を繰り返すことが大切だろう。抵抗感がなくなるまでその英語の手遊びに慣れるようにするには、保育者の近くに寄り添えるリーダーがおり、不安があるときに何でも尋ねることが出来る体制が必要であろう。

【参考文献・引用文献】

- 井口紀子（2012）「Head, Shoulder, Knees and Toes」『はじめての手あそびうたブック』p8-10. 永岡書店
- 井口紀子（2012）「Under the Spreading Chestnut Tree おおきなくりのきのしたで」『はじめての手あそびうたブック』P98-100. 永岡書店
- 井口紀子（2012）「London Bridge」『はじめての手あそびうたブック』P121-122. 永岡書店
- 朔杉真由美（2009）「まがりかど」財団法人・幼少年教育所『新版 遊びの指導』同文書院 p292
- 倉橋惣三（2009）「まがりかど」宇野文博『新版 遊びの指導』同文書院 p 292
- 田頭初美（2009）「ロンドン橋おちた」財団法人・幼少年教育所『新版 遊びの指導』同文書院 p295
- 秀真一郎、木本有香、中島眞吾、烏田直哉、小野克志、志濃田亜美、横井一之、田中卓也（2013）「幼児教育現場における英語活動の実態とその方向性」『吉備国際大学研究紀要（人文・社会科学計）』

第 23 号、21-28.

福田光葉（2009）「あたま・かた・ひざ・ボン」財団法人・幼少年教育所『新版 遊びの指導』同文書院 p38

横井一之・高森亜希子（2006）「英語保育教材の開発と実践－コアラの手遊びを指導して」『鈴鹿国際大学短期大学部紀要』第 26 巻、p4.